

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第64号

2022(令和4)年9月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

交雑によることの証 — メンデルの法則：雑種第三代 —

木綿庵1号畑で、予期せぬ交雑が生じた可能性があります。今季、洋綿のアブランドの種を蒔いたはずの畝で、37株中10株が、アブランドとは明らかに異なる品種(超長繊維綿)であることがわかりました。以下は、今春当方の洋綿の種をご購入くださいました皆様にお送りした文書です。

2021年(令和3)産の「洋綿」の種をご購入くださいました皆様へ

2022年8月17日

交雑、混入の可能性について — お詫びと説明 —

その節は、当方の綿の種をご購入いただきまして、誠にありがとうございました。いよいよ綿の開花、結実のシーズンをむかえましたが、皆様の綿の生長ぶりはいかがでしょう。

さて、今般、当方の綿畑で、「洋綿」に他品種との交雑あるいは混入の可能性があることがわかりました。今年度、洋綿(アブランド)の種を播いたはずの畝で、37株中の10株が、アブランドではない、稀少種の超長繊維綿となっていました。同じ洋綿でも、アブランドとは明らかに花の姿も、緑の萼、葉の姿も異なります。ご参考までに、アブランドの花と、超長繊維綿の花の写真を添付させていただきます。稀少種の超長繊維綿は花が濃黄色で、八重咲きに似てとても美しいのですが、アブランドとは明らかに異なります。

原因は、一昨年(2020年)に試験的に栽培した稀少種の超長繊維綿複数種(品種確認中)と交雑(交配)、あるいはその後に種が混入した結果によるものと考えられます。当方では、アブランドを栽培して14年目になりますが、こうした事態は初めてです。

洋綿の種をご購入くださいました皆様の中には、特にアブランドをご希望でいらした方もおられることと存じま。超長繊維綿も、「洋綿」であることには変わりはありませんが、他の方にご説明、ご紹介される場合に、間違いがあっては申し訳ございませんので、取り急ぎ、お詫び旁々ご報告させていただくことにいたしました。

なお、念のために当方の洋綿の種を購入された知人の畑を確認させていただきましたところ、その畑ではすべてアブランドであり、交雑もしくは混入の様相は認められませんでした。

つきましては、お手数をおかけして誠に申し訳ございませんが、今一度、花の姿をご観察いただきまして、異なる様相が確認されましたなら、上記経緯ご賢察のほどなにとぞよろしくお願い申し上げますとともに、ご一報をいただきますれば幸いです。

ご報告が遅れましたことを重ねてお詫び申し上げます。

その後、静岡県御殿場市の方からと、岡山県都窪郡の方、大阪府池田市の方からご報告をいただきました。静岡の方は約60株のうち1株だけが異品種、岡山の方は約400株のうち1株だけが異品種とのことでした。大阪の方は、友人に譲った種から1株だけ異品種が確認され、その1株は開花時から花びらが赤色を呈するとの由。同じ異品種でもこの1株だけは当庵の異品種とも異なる別種です。メンデルの法則という雑種第三代の可能性が考えられます。交雑によることの何よりの証です。



アブランドの花



超長繊維綿の花

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和7年7月26日～令和4年9月25日)

埼玉県1、東京都1、神奈川県1、岐阜県1、奈良県2、山口県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和4年7月26日～令和4年9月25日)

メールを含む各種相談件数12、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数8組18名



《綿の栽培記録 2022》－ 令和4年度版 その4－

天理市乙木町における梅田の感覚的気象観測データ(令和4年7月24日～9月23日)は、Livedoor Blog「綿の栽培記録」(H. A. M. A. 木綿庵のHPのホームページにもリンクあり)をご参照ください。

8月初旬から開花盛期に入り、中旬から順次、綿が吹き始めました。2022年の木綿庵の公式記録として、綿の開花確認(吹き初め)は和綿8月12日、洋綿8月25日とさせていただきます。ただし、8月後半から9月中旬にかけて定期的によく雨が降ったことも影響してか、今年の収穫量は少なめです。

また、洋綿において初めて交雑が確認されました。37株中の10株が異品種。発生比率は27:10。おおよそ3:1。メンデルの法則にしたがえばアブランドが優性、超長繊維綿が劣性となります。2020年に交雑が生じ、翌2021年産は雑種第一代(F1)ですべてアブランド。2022年産は雑種第二代で、3:1の割合で劣性が出現したことになります。優劣の法則、分離の法則の理論通りです。

前頁記載の大阪府池田市で確認された1株は、2020年にはいずれの親株にも確認されなかった形質(開花時より花びらが赤色を呈す)を有しており、雑種第三代が考えられる、ということになります。

なお、薬剤散布については、早々にハマキムシ被害が確認されたため、例年より少し早めの6月15日に1号畑と7号畑の和綿と洋綿の綿木にスミチオン乳剤(住友化学)1,000倍希釈液と、アフーム乳剤(シンジェンタジャパン)1,500倍希釈液を散布。また、洋綿にのみ、7月18日に2回目の農薬散布を行いました。スミチオン乳剤1,000倍希釈液と、虫ラップ500倍希釈液です。ちなみに虫ラップは有機栽培でも使用が認められている薬剤です。和綿につきましては、2回目の薬剤散布はしていません。

下段写真は左から、1号畑の和綿の蒴果、同コットンボール、洋綿(アブランド)の蒴果、同コットンボールの様子です。



下段写真は左から、超長繊維綿の蒴果、同コットンボール、和綿の実綿、和綿の鉢植えの様子です。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：令和元年, 2019年産。丹羽正行氏による打ち綿)
令和4年7月26日～令和4年9月25日 (作業実日数25日) 糸の総量60.5g (16.1匁) 総時間241分
※1分間≒0.251g 1時間≒15.1g (4.0匁)

【研修等の記録】

- 令和4年07月27日 大和茶の茶畑(奈良県山添村)での茶摘みの手伝い(パート)を了える。二番茶終了。
- 令和4年08月02日 明日香村のぶどう園にて、ぶどう出荷の手伝い(パート)をはじめ。1ヶ月契約。
- 令和4年08月21日 明日香村のぶどう園でのぶどう出荷の手伝いを退く。濃厚接触者となり自宅待機。
- 令和4年09月02日 田原本町の農場生産研究所にてスイカの採種作業等の手伝い(パート)をはじめ。